

長崎大学本学ラグビー部 卒業生お別れ試合レポート

文：監督 二見玲雄

ラグビー日和となった3月13日（日）に長崎大学文教キャンパスのグラウンドにて今月卒業する4年生と在校生で部内マッチを行った。

試合開始前には、3月11日に発生した東北関東大震災で被害に見舞われた方たちを偲び、部員全員で黙祷を捧げると共に、今日ここでラグビーができる事に感謝をしようと部員達に話した。

今季は、九州学生リーグⅡ部で3位という成績に終わり、目標であったⅠ部への昇格は果たせなかったが、シーズンを通して、チームを鼓舞してくれた4年生。最終戦を終えてから約3ヶ月。少しふっくらとした彼らに話を聞くと、卒業する者は全員、今後進学や就職という新たなステージを確保できたと聞き、一安心した。

試合では、4年生は4年生らしい前へ出るアタック。それを組織で止める在校生のディフェンスが光り、締まった試合展開となった。

ハーフタイムでは、チームの垣根を越えて4年生が在校生に試合を通して感じた事をアドバイスする姿も見られ、4年生のたくましさを感じる一方で、この4年生達がチームから去るのかと思うと淋しい気持ちにもなった。ありがとう4年生。

在校生達は来月から新入生勧誘に奔走する。本校は、ラグビー部へ推薦入学などはもちろんない。新入生の体格を見て、ラグビーの経験の有無を積極的に聞き込み、勧誘する。たまにおいしい学食を餌にして。。

もちろん、現在の部員の中にもラグビー未経験の者もいる。しかし1年もすると「形」になっている。それに刺激され、チームの士気も上る。

ラグビーの経験問わず、集まった素晴らしい仲間「長大ラグビー部」。卒業生には、今後も温かい応援をしてくれるよう願う。